

【江戸と平成の今昔】

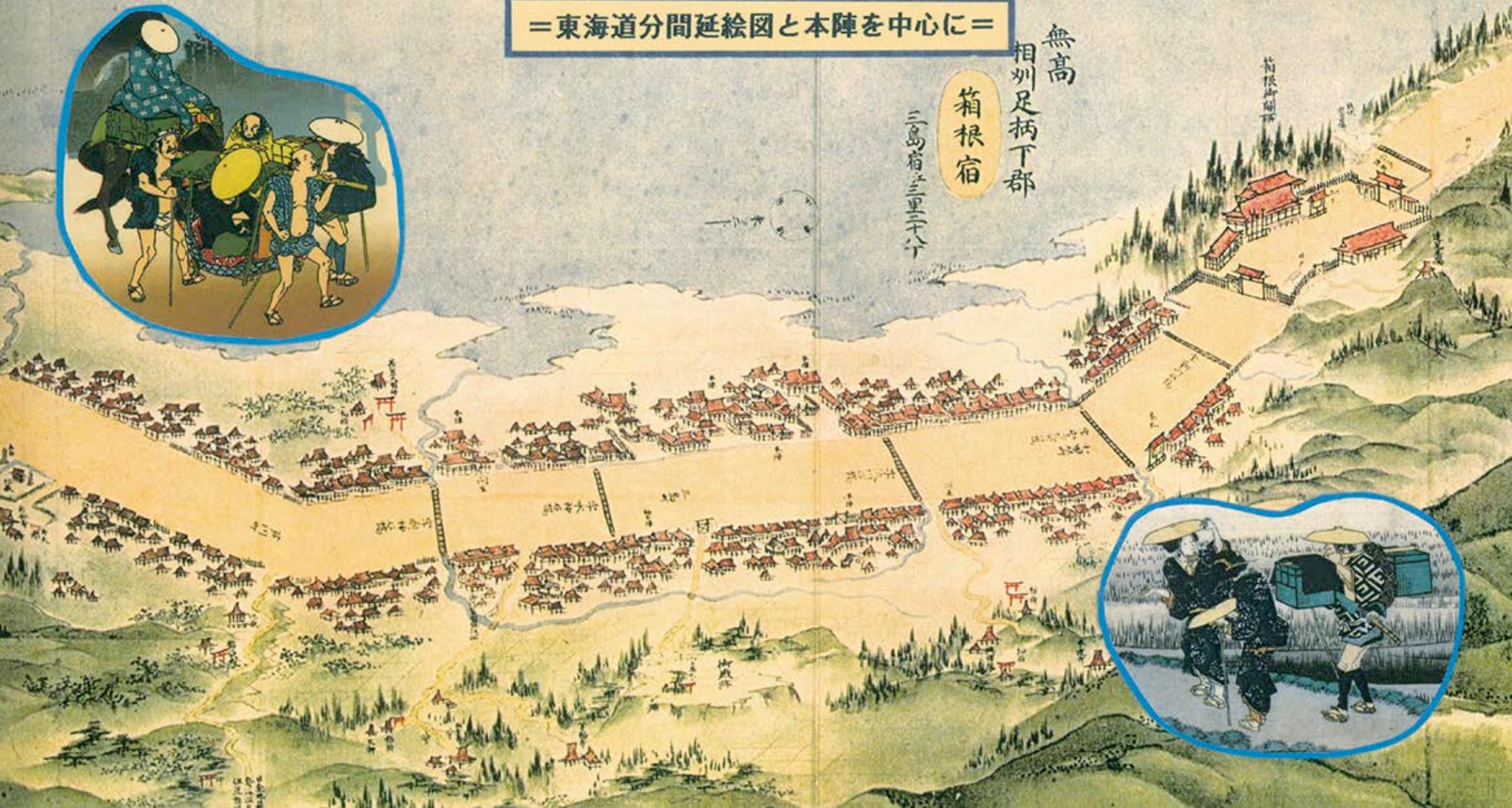
# 東海道五十三次全踏破

＝東海道分間延絵図と本陣を中心に＝



無高  
相州足柄下郡  
箱根宿

三島宿三里二十八



我れは嶺の絶えたる一帯の富士の高根白砂よりして時をぬ  
 老松あり一知の方小愛鷹山巴の方や伊豆の岬西の方や二保の  
 ね赤みむ群やんやうて赤や紅海嶺然として老松を去の波るふ  
 鮑とる海士棠螺狭渾ま夏も縁辺の堂をくくると初馬の渡り



薩埵峠 東海道線・国道1号線・東名高速が密集する東海道の難所

平成30年10月28日撮影

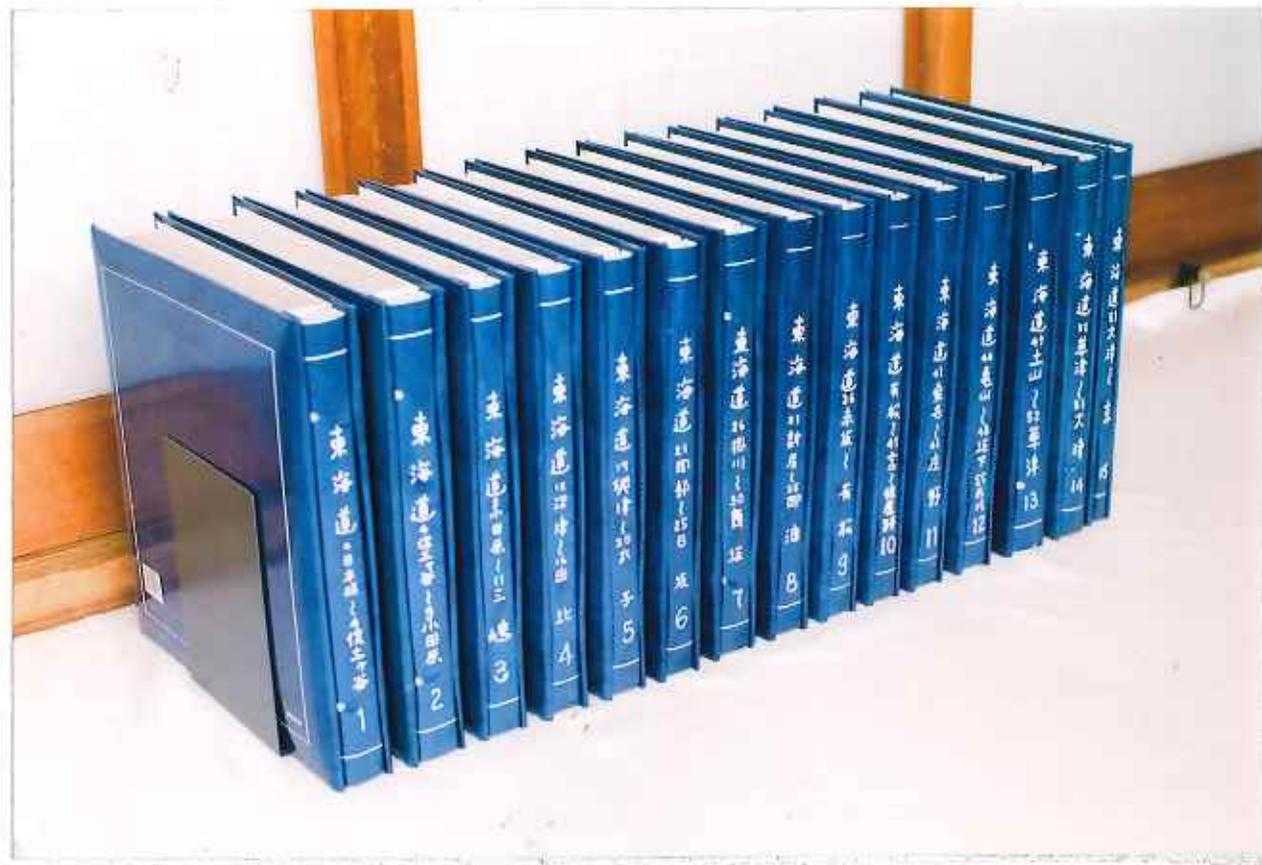
薩埵嶺 櫻嶺山の峠に西の藤原洞村と云ふれりせしれを切通し板井文板  
 葛籠坂半崩坂山梯平たれが峠に武利茶屋跡が板井文板  
 藤原の嶺ふりてより中古跡藤原の跡は板井  
 藤原の嶺ふりてより中東藤原の跡は板井  
 藤原の嶺ふりてより中東藤原の跡は板井

『東海道名所図会』より

## はじめに

この本は私が東海道を歩いた記録と古代・中世の頃の道も含めて調べまとめた本です。在職中街道を歩いて写真を撮るのが趣味で、東海道の他に中山道・日光街道・日光例幣使街道・甲州街道・水戸街道・伊奈街道・北国街道・大山街道・川越街道を歩きました。江戸時代の寛政年間（1789〜1801）に道中奉行所が監修して作られた『五街道分間延絵図』を元に、江戸と平成の今昔を比べて、それを2万5千分の1の地図に落とし込んで歩きました。写真を撮った場所も印を付けて後で分かる様にしました。この原稿を作るのに2年半かかりました。

歩いた年度は、平成9年7月27日に日本橋を出発し京都の三条大橋に着いたのは平成11年4月17日で1年9ヶ月かかりました。京までの492kmを29回で行ったので、1日に約16km程歩いたことになります。撮りなおした写真もあります。

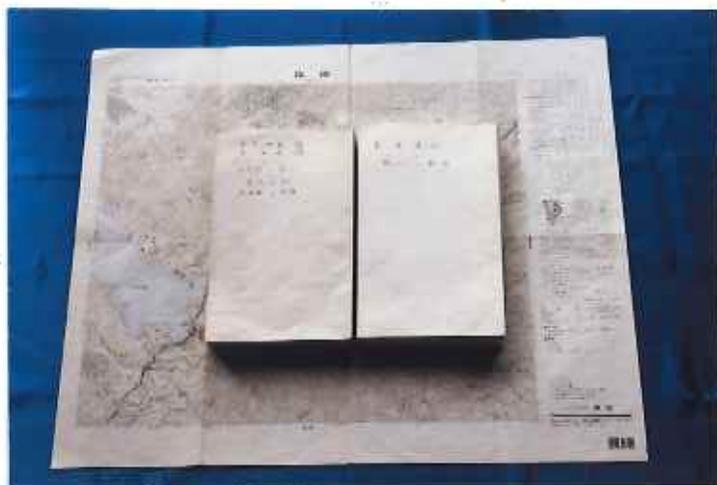


東海道五十三次のアルバム 15冊

撮った写真約4000枚。



『東海道分間延絵図』をコピーして巻物にしたもの。22巻。



実際に持って歩いた2万5千分の1の地図。58冊ある。

【本の中の表】

『宿村大概帳』の各宿場の様子の表  
天保14年(1843)の頃数

26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
掛川	日坂	金谷	島田	藤枝	岡部	鞠子	府中	江尻	興津	由井	蒲原	吉原	原	沼津	三島	箱根	小田原	大磯	平塚	藤沢	戸塚	保土ヶ谷	神奈川	川崎	品川	日本橋
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
109	105	101	97	93	89	85	79	75	71	67	63	59	55	51	47	43	35	31	27	23	19	15	11	7	3	1

54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27
京都	大津	草津	石部	水口	土山	坂之下	関	亀山	庄野	石薬師	四日市	桑名	宮	鳴海	池鯉鮒	岡崎	藤川	赤坂	御油	吉田	二川	白須賀	新居	舞坂	浜松	見附	袋井
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
251	243	235	231	225	221	213	207	203	199	195	191	187	183	179	175	165	161	157	153	145	141	137	133	129	123	117	113

宿内人口 人  
総家数 軒  
旅籠 軒  
軒軒軒 軒  
大中小

目

次

# 古代の東海道



平安時代中期に施行された『延喜式』にある駅名

## =古代の官道五畿七道=

### 凡例

- ==== 各道本路
- 支路または連絡路
- ⊠ 国府
- 城柵
- 駅家

大化改新（645年）のあと全国に京と地方を結ぶ官道が整備された。その長さはおよそ6300kmにも達し、約16kmおきに駅家が置かれ、幅12m程もあるほぼ直線の幹線道路が造られた。七道の内の東海道もその1つで、32の駅家が置かれた。現在の高速道路がほぼそのルートに当たっています。

東海道		道名
常陸国	山城国	山崎二〇疋
武蔵国	近江国	勢多三〇疋 清水鳥籠 三尾各七疋
相模国	志摩国	鴨部 飯高 度会各八疋
甲斐国	尾張国	馬津 新溝 兩村各一〇疋
駿河国	参河国	鳥捕 山網 渡津各一〇疋
遠江国	尾張国	猪鼻 栗原 引摩 横尾 初倉各一〇疋
信濃国	駿河国	小川 横田 息津 蒲原 長倉各一〇疋
武蔵国	相模国	横走二〇疋 板本二二疋 水市河口 加吉各五疋
相模国	相模国	板本二二疋 小総箕輪 濱田各一二疋
甲斐国	相模国	水市河口 小総箕輪 濱田各一二疋
駿河国	相模国	横走二〇疋 板本二二疋 水市河口 加吉各五疋
遠江国	尾張国	鳥捕 山網 渡津各一〇疋
尾張国	尾張国	馬津 新溝 兩村各一〇疋
参河国	尾張国	鳥捕 山網 渡津各一〇疋
远江国	尾張国	猪鼻 栗原 引摩 横尾 初倉各一〇疋
駿河国	尾張国	小川 横田 息津 蒲原 長倉各一〇疋
伊勢国	尾張国	鴨部 飯高 度会各八疋
志摩国	尾張国	馬津 新溝 兩村各一〇疋
尾張国	尾張国	鳥捕 山網 渡津各一〇疋
参河国	尾張国	猪鼻 栗原 引摩 横尾 初倉各一〇疋
远江国	尾張国	小川 横田 息津 蒲原 長倉各一〇疋
駿河国	尾張国	横走二〇疋 板本二二疋 水市河口 加吉各五疋
相模国	尾張国	板本二二疋 小総箕輪 濱田各一二疋
甲斐国	尾張国	水市河口 小総箕輪 濱田各一二疋
武蔵国	尾張国	横走二〇疋 板本二二疋 水市河口 加吉各五疋
常陸国	尾張国	山崎二〇疋

全国に402の駅が置かれた

『古代の道』

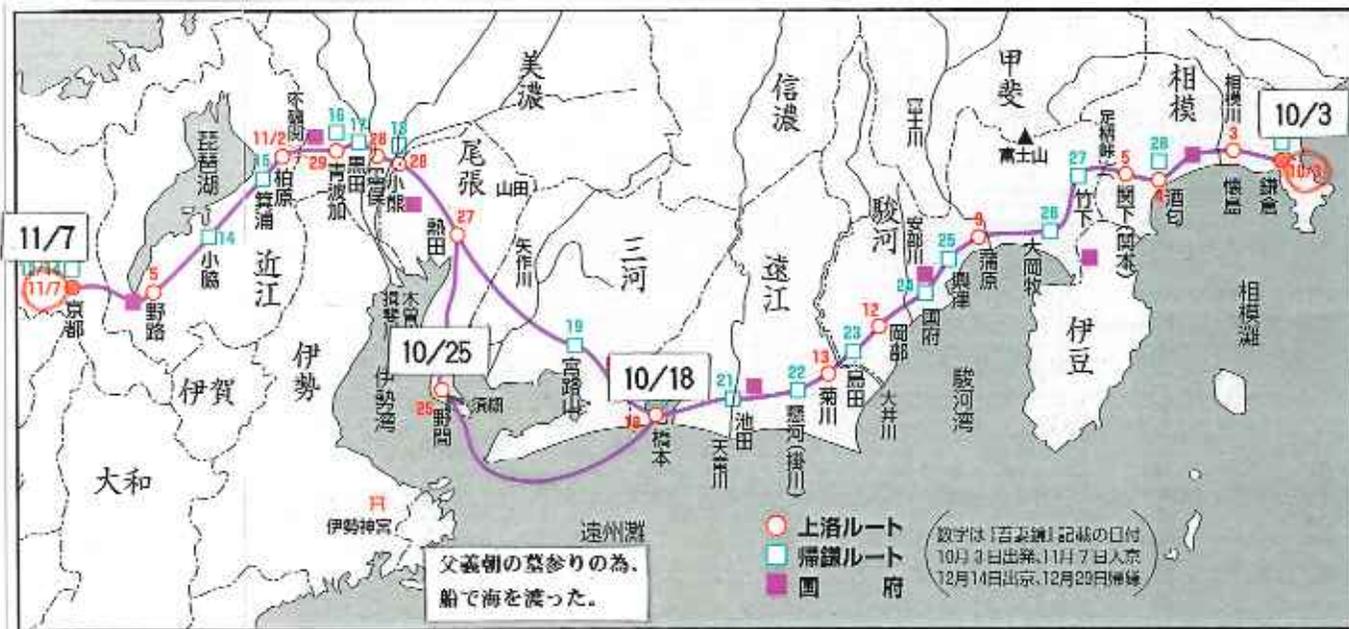
表1 「延喜式」駅名・駅馬数

国・駅名・駅馬数

# 中世鎌倉時代の東海道



【神奈川の東海道】 神奈川新聞社



## 《上洛の様子》

上洛は約千人の行列で10月3日鎌倉を出発し京へ向かった。先頭は畠山重忠で当時26才、頼朝は43才。到着したのは11月7日で77代後白河法皇がそれを迎えた。

『吾妻鏡』には332人の名前がのっているが、その内の約半数の164人が武蔵・相模の東国の武士達だった。

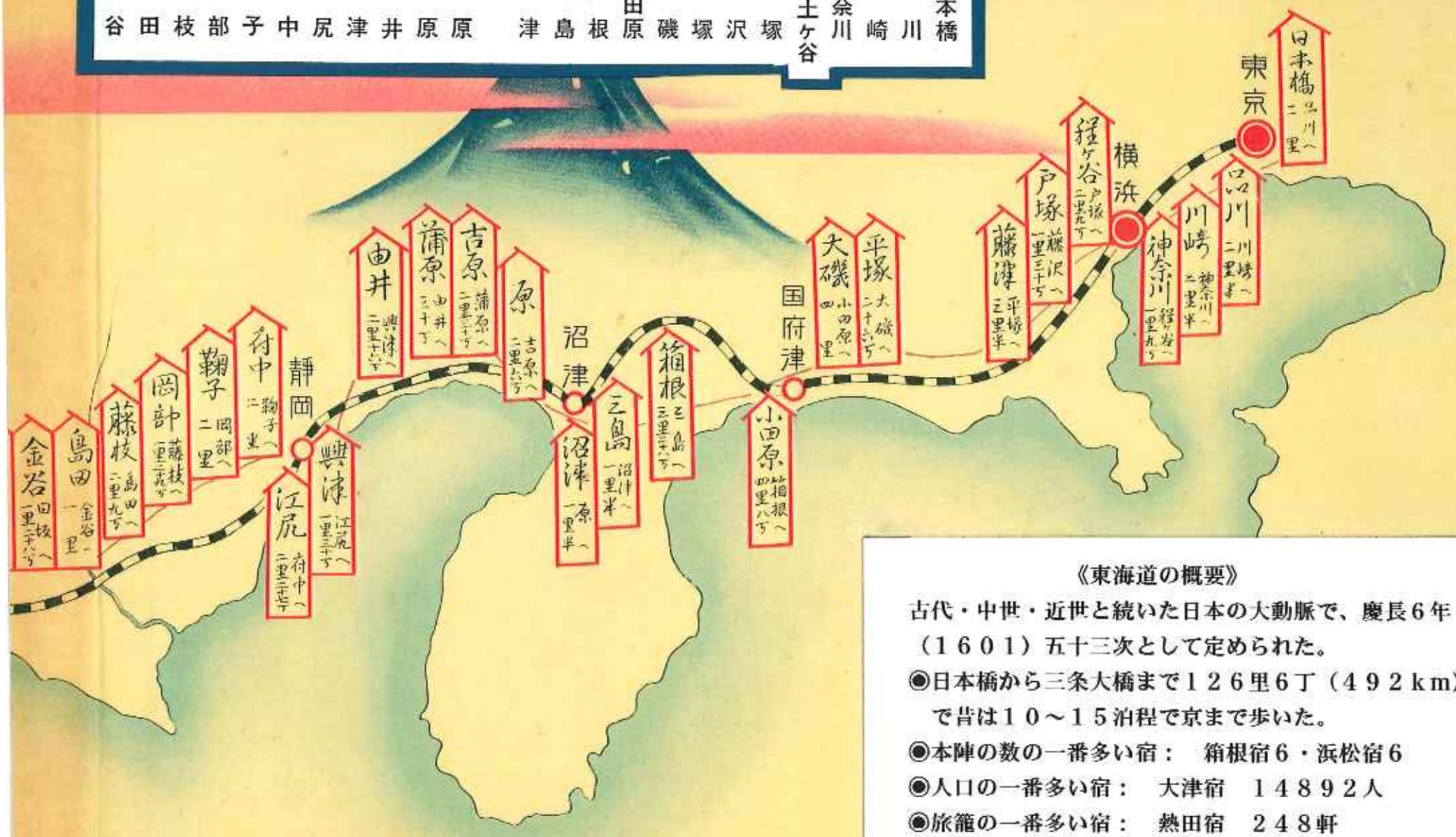
### ◎頼朝のいでたち

黒い馬に乗り、紅衣を着て、袴をはき、烏帽子をかぶり、矢を背負っていた。

源頼朝が建久元年（1190）上洛した時のルートで、名古屋の熱田から関ヶ原を経て1ヶ月程かけて歩いた。

24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

金島藤岡鞠府江興由蒲吉原沼三箱小大平藤戸保神川品日本  
 谷田枝部子中尻津井原原津島根原磯塚沢塚土ヶ谷奈川崎川橋



《東海道の概要》

- 古代・中世・近世と続いた日本の大動脈で、慶長6年（1601）五十三次として定められた。
- 日本橋から三条大橋まで126里6丁（492 km）で昔は10～15泊程で京まで歩いた。
- 本陣の数の一番多い宿： 箱根宿6・浜松宿6
- 人口の一番多い宿： 大津宿 14892人
- 旅籠の一番多い宿： 熱田宿 248軒



54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25
京	大	草	石	水	土	坂	関	龜	庄	石	四	桑	宮	鳴	池	岡	藤	赤	御	吉	二	白	新	舞	浜	見	袋	掛	日
都	津	津	部	口	山	下	山	野	師	市	名	海	鯉	崎	川	坂	油	田	川	須	居	坂	松	附	井	川	坂		



道路の元標。橋の真中に埋め込まれている。

日本橋が出来た明治44年に造られた麒麟像で、“ここから日本中に飛び立て！”という意がある。作者は彫刻家の渡辺長男氏。



五街道の起点の日本橋。最初の架設は慶長8年（1603）現在の橋は明治44年に架けられた橋。平成30年4月21日撮影



日本橋から見た東海道の出発点。江戸の頃は「通町」といった。



大正の頃の日本橋。左の奥が三越本店。



高輪大木戸の標柱



『江戸名所図会』の高輪大木戸の様子。左が江戸側。



今の銀座通り、左が高島屋、右に丸善のビルが見える。



八ッ山橋 大正3年の親柱。  
下を東海道線が走っている。  
右側が品川の駅。



江戸の出入口に設置された高輪大木戸の石垣で  
享保9年(1724)設置されたとある。品川  
駅から来ると海側の右半分が残されている。



京橋 慶長年間(1598~  
1615)に架けられた。現  
在は大正11年の親柱が残さ  
れている。



本陣  
1軒

本陣高山家のあった所で今は公園になっている。

脇本陣 2軒



荏原神社

奈良時代の和銅2年(709)の創建という古社で元は貴船明神社といわれていた。

絵図には目黒川が神社の右側を流れているが、現在は左側に代わっている。



原寸大



平成30年6月29日撮影



品川橋 目黒川に架かる橋で以前は品川宿の中間にあったので中の橋と呼ばれていた。

# 《品川宿》

宿内人口

6890人

総家数

1561軒

旅籠

93軒

大 9軒  
中 66軒  
小 18軒

今でも旧東海道の名残りが残っている宿場町

# 品川宿中心部

## 品川屋海苔店

高九段八拾石餘  
武州荏原郡  
品川宿  
川崎宿三軍

品川名物の海苔を売っている店がまだある。

京急古物横町駅沿いの東海道。右奥が駅。

荏原神社

問屋場

高札

旗本陣

北品川宿三丁目

南品川二丁目

品川橋

真目改所

一丁目

本陣



品川寺の前の東海道。



古い問屋の店。今は品川宿の「お休み処」となっている。

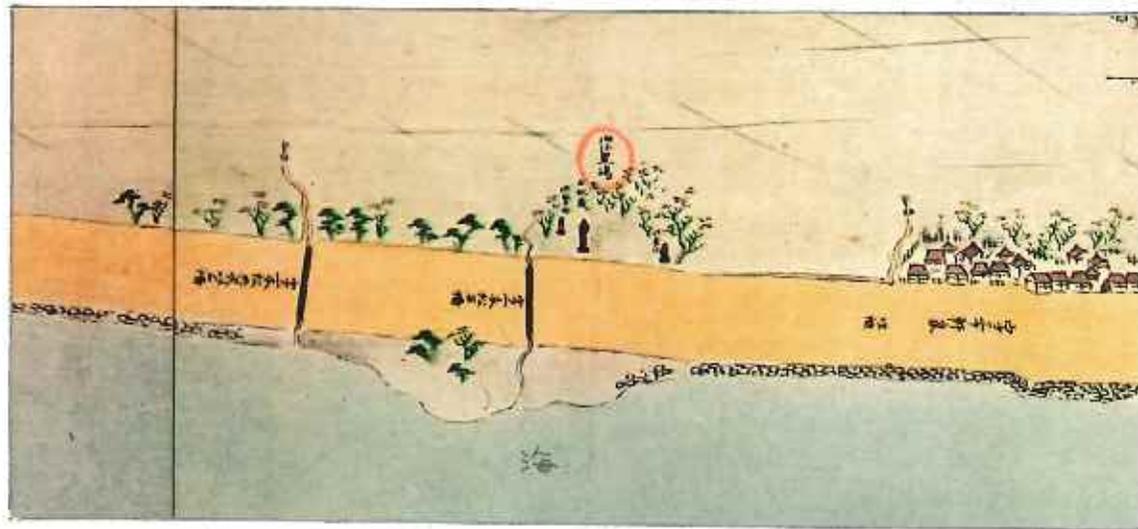


昔はわざわざ光っていたのだから。



首洗いの井戸が今も残っている。

鈴ヶ森の処刑場の跡



この処刑場は慶安2年(1651)に設置され絵図には「御仕置場」と書かれている。



左が刑場の跡で手前が川崎への道。  
品川区南大井2-5。



はりつけ台



火あぶり台



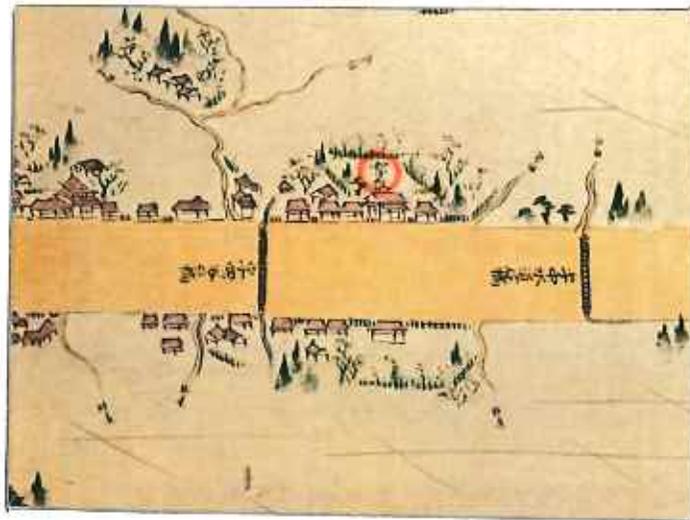
品川寺 平安時代初期の大同年間(806~810)の開創といわれる古寺。江戸の街道の入口に置かれた6つの地蔵の第1番目の寺。真言宗。



浜川橋 立合川に架かる橋で、鈴ヶ森の刑場に送られる罪人と家族がここで別れの涙を流したので涙橋ともいわれた。

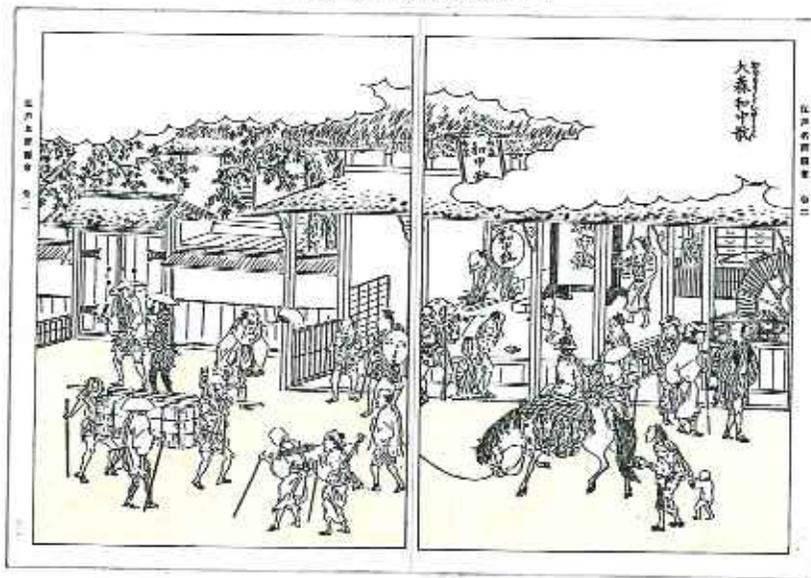


京急蒲田駅前 今の第一京浜が旧東海道



「和中散」は旅の万能薬で本店は草津にあり大森に3軒あった。これは1番南にあった久三郎の店。

大森の「和中散」の店



『江戸名所図会』に描かれている和中散の店。左に御門があるので3軒あった真中の店と思われる。右側に薬をつくる歯車が見える。



美原通り 京急平和島駅の東側の旧東海道。



六郷橋 多摩川に架かる六郷橋の渡し船のレリーフ。これを渡ると川崎宿に入る。

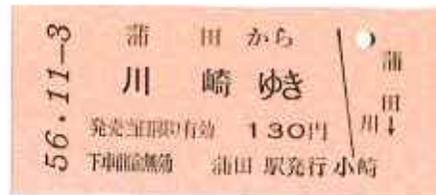


梅屋敷公園 「和中散」久三郎の店の庭で現在は公園になっている。

## 2 《川崎宿》

多摩川を渡り川崎大師への参拝客でにぎわった宿

宿内人口	2433人
総家数	541軒
旅籠	72軒
大中小軒	9軒 29軒 34軒



川崎駅

平成30年6月29日撮影



本陣  
2軒

本陣田中家の跡で説明板が設置されている。この先の右側にもう1軒の本陣佐藤家が宿の西側にあったがここはビルが建っていて正確な位置が分からない。

脇本陣 0軒



田中本陣の少し先の旧東海道。この先の道は宿の中央でゆるく、くの字に曲がっている。問屋場はそこにあった。



宿の入口 左側の角に奈良茶漬で有名だった「万年屋」があった。左は川崎大師への道。



旧道「いさご通り」の入口。砂子2丁目。



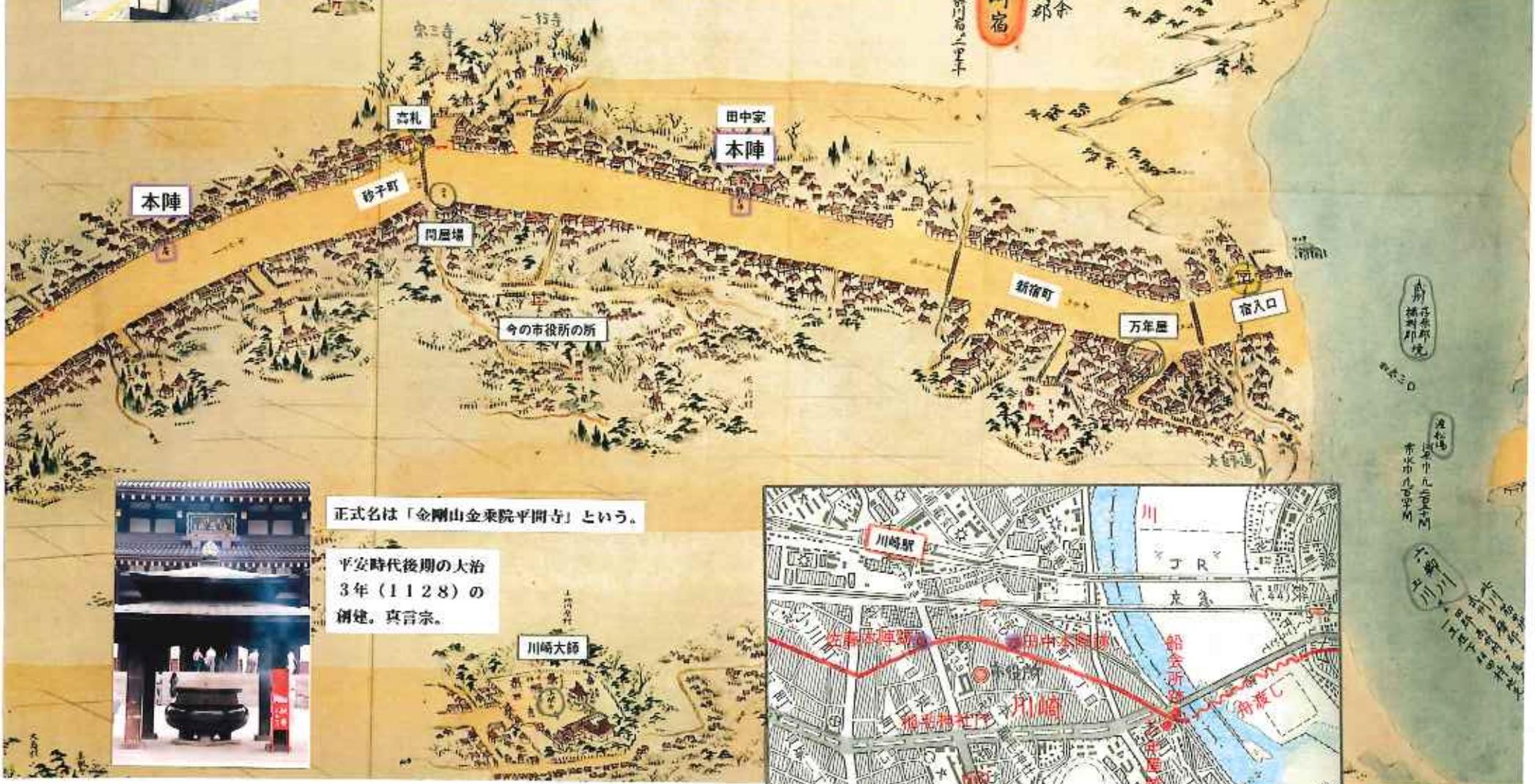
宿の中心部で道が折れる所。



昔の名は「六郷川」今の橋の名も六郷橋。

2 川崎宿

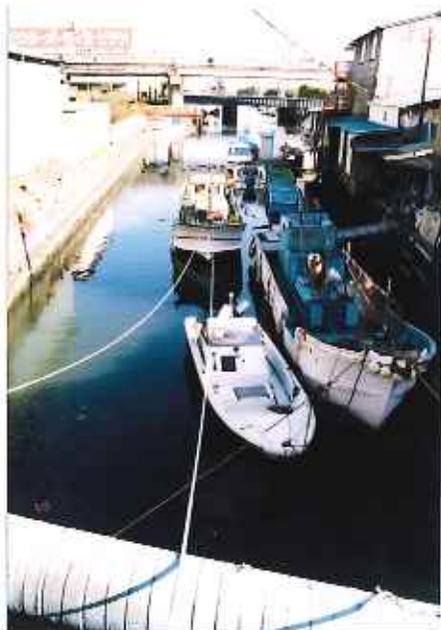
高千三百六十余  
武勇橋樹郡  
神奈川宿之里千



正式名は「金剛山金乗院平間寺」という。

平安時代後期の大治3年(1128)の創建。真言宗。

川崎大師



入江橋 京急新了安駅と子安駅の間にある入江川に架かる橋。海の方を見る。



「子安」の名は昔ここに子安神社があったので付た名といわれる。



JR 鶴見線国道駅の南側の生麦魚河岸通りの旧東海道。昔の江戸前の漁師町で、今も魚をあつかう店が両側に並んでいる。



「生麦」とは、家康が開東入国の時生麦を刈り取って街道を開いたので付いた名という。



旧道と第一京浜の合流点。手前が神奈川県側。



## 鶴見橋



鶴見川橋 平成8年に竣工した新しい橋。



鶴見川に架かる当時は木の橋で幅5.4m、川の幅は約15m程あった。



川崎宿を出て京急鶴見市場駅の西側の市場銀座通りが旧東海道。市場東中町5丁目。



鶴見橋開門旧跡 安政6年(1859)横浜開港の時、浪人の侵入を防ぐ為に奉行所が設置した関所がここにあった。



市場村一里塚 江戸から5里目(20Km)にある塚で両側にあった。

# 3 《神奈川宿》

少し先の高台は景勝地で茶屋町として繁盛した

宿内人口

5973人

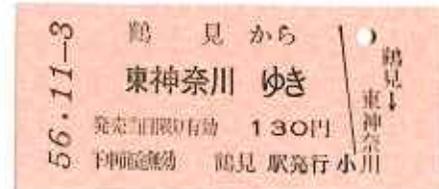
総家数

1341軒

旅籠

58軒

大 4軒  
中 28軒  
小 26軒



大正時代の高台から見た神奈川宿。



本陣の西側を流れる滝の川に架かる橋。



**本陣** 滝の橋の手前がある今の小野モーターズの所が本陣の跡。もう1つの本陣は橋を渡った左側の今の横浜銀行の所にあったが現在は何も残っていない。

2軒

脇本陣 0軒



古い看板が保存されている。



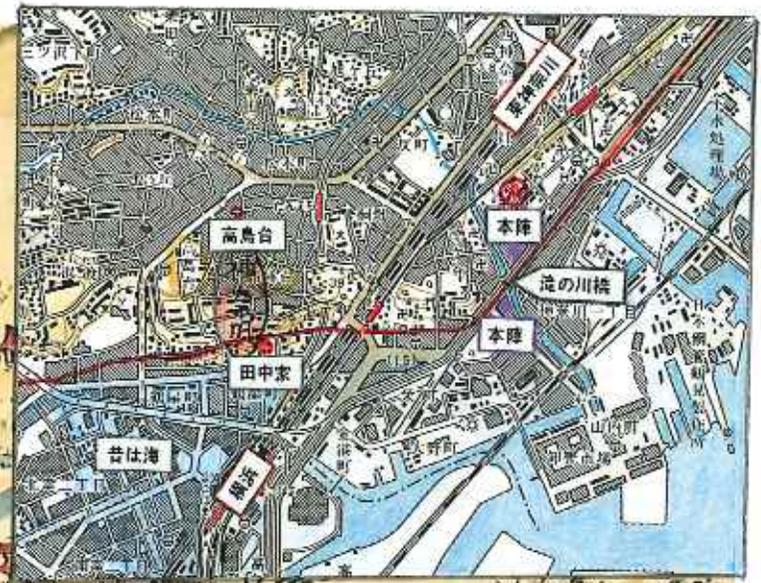
本陣の説明板で石井家と書いてある。



高島台より横浜駅の方を望む。昔は海。

3  
 百貳拾七石余  
 初橋樹郡  
**神奈川宿**

保土ヶ谷宿より九下





料亭田中家 横浜開港4年後の文久3年(1863)創業の老舗。幕末の頃勝海舟や高杉晋作・伊藤博文・西郷隆盛らも利用してた料亭で、坂本龍馬の妻お龍さんが龍馬の死後明治5年頃上京しここで世話になったという話が残されている。



広重東海道五十三次の神奈川台



神奈川宿を出た東海道は第一京浜から右に入り、今の宮前商店街をゆく。



田中家の脇の道から見た横浜駅方面で高台から遠くにそごうのマークが見える。この先は海だった。



当時の田中家の様子



東海道線のガードをくぐり、この先高台の台町の上り坂となる。



帷子橋を渡る。



つき当たりが相鉄天王町駅。



八王子道の分岐点 手前の左側に追分の名の公園がある。西区浅間町4丁目。



右の絵の帷子川はここを流れていた。街道はここで手前の広い通りへ出て左へ進む。相鉄天王町駅前



帷子川に架かる橋。昔は天王町駅の西側を流れていた。



松原商店街を通る旧道。両側に店が並んでいる。西区天王町1丁目。

# 4 《保土ヶ谷宿》

明治20年保土ヶ谷駅が設置され国府津まで開通した



**本陣** 北条5代の家臣だった軽部家。国道1号線と旧東海道の交わる所にあり現在も住まわれている。  
1軒

脇本陣 3軒



宿の入口 左へ行くと保土ヶ谷駅



JR保土ヶ谷駅



大正時代の帷子橋



本陣の説明板がある。



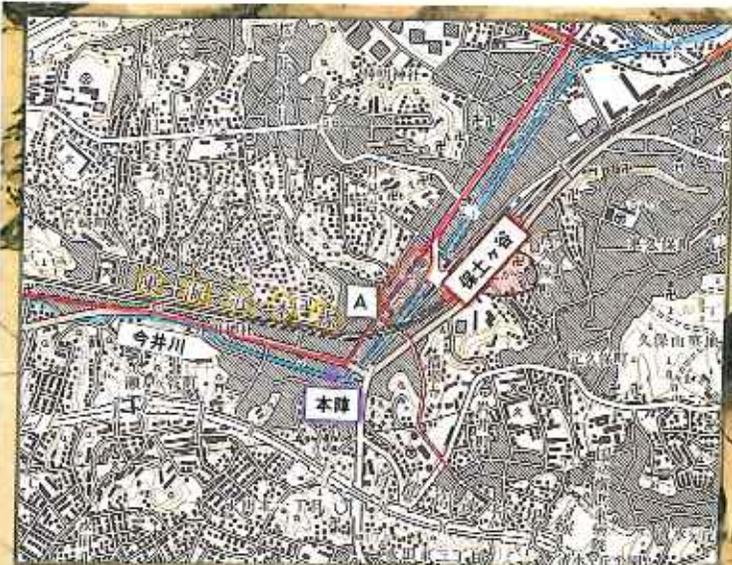
道標が4基残されている。右から2本目が一番古く元和2年（1689）の建立。



左の写真の道標

**A** 左が金沢文庫・浦賀への道。この辺は当時の道巾が残されている。この景色は今はない。  
帷子町2丁目で図のA地点。

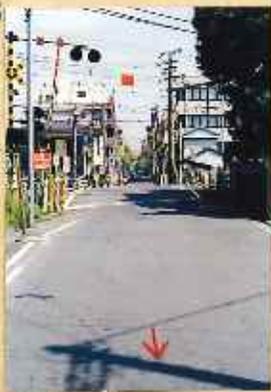
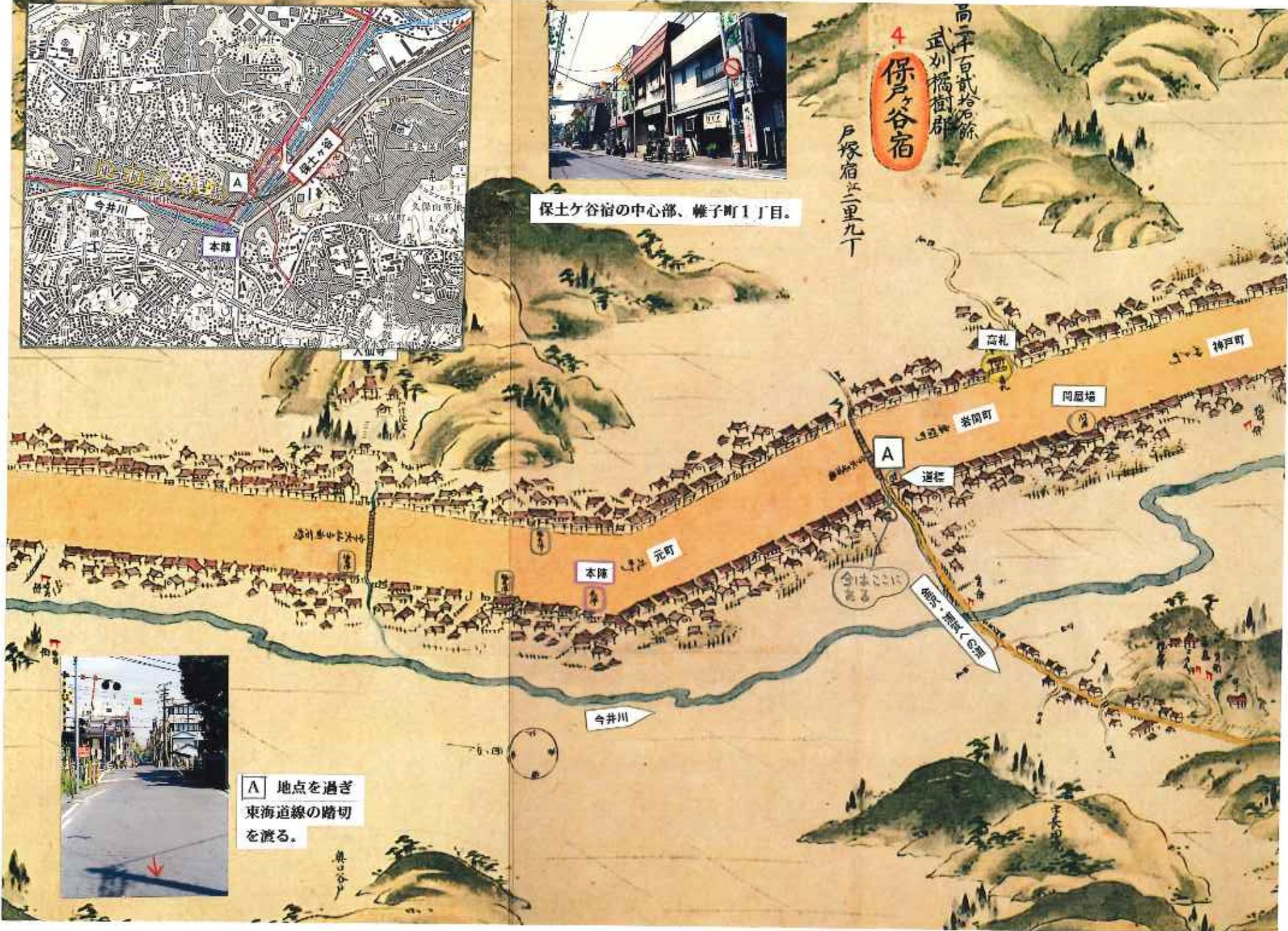
宿内人口	2928人
総家数	558軒
旅籠	67軒
大中小軒	7軒 24軒 36軒



保土ヶ谷宿の中心部、帷子町1丁目。

高平百武拾伍郎  
武州橋樹群  
4 保土ヶ谷宿

戸塚宿三里九下



A 地点を過ぎ  
東海道線の踏切  
を渡る。



立場 国境の少し手前にある街道沿いの旧家若林家。当時は3軒の茶屋があり「ぼたん餅」を名物としていた。絵図にも描かれている。



権太坂 権太とは、耳の遠い古老がここにいて坂の名を聞かれたのに自分の名を聞かれたと勘違いして自分は「権太だ」と答えた所からこの坂の名が付けられたといわれる。  
かなり急な坂が続く。



保土ヶ谷宿を出て国道1号線の左側にある旧家。



武蔵国と相模国の国境 街道の右側にある地藏堂で境木地藏と呼ばれている。ここから相模国に入る。



分間延絵図の国境の立場の図



その少し先祭礼をやっていた。旧道はこの先を1号線と分かれ、保土ヶ谷2丁目の信号を右へ入ってゆく。



大山街道の分岐点 手前の右に入る道  
が大山への道で、江戸中頃に建てられ  
た道標がいくつか残っている。



品濃坂 振り返って保土ヶ谷方面を見る。



東海道線の踏切を渡り戸塚宿に入る。



品濃坂の図。左が戸塚側。



品濃一里塚 江戸から9番目(3.6  
km)の塚で両側に今でも残っている  
貴重な塚で県の史跡に指定されている。  
これは右側の塚。

# 5 《戸塚宿》

宿内人口

2906人

総家数

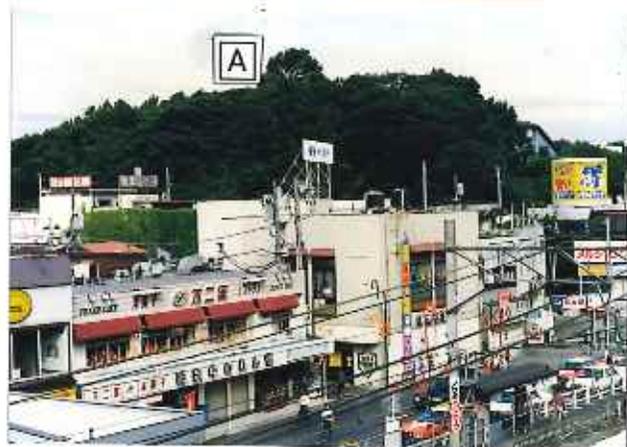
613軒

旅籠

75軒

大 24軒  
中 20軒  
小 31軒

56.11-3 横浜から 戸塚ゆき 横浜  
 発売当日限り有効 170円  
 印刷局発行 横浜 駅発行 小塚



戸塚駅西口の駅の上から東海道をはさんで左の絵にある清源院のある山を見る。



大正時代の柏尾川に架かる古田橋。右へゆくと鎌倉へ通じる道がある。ここは広重の五十三次の「戸塚」の絵がある所で左に茶屋の「こめや」があった。

横浜市戸塚区戸塚町四一四番地  
**澤邊**

本陣沢邊家の表札。  
説明板が設置されている。

**本陣跡**

戸塚が東海道の宿駅になったのは、慶長九年（1604年）11月のことであった。**澤邊本陣**の初祖、澤邊宗三は戸塚宿設置の功労者である。

本陣とは公郷、門跡、大名などの宿泊する公の宿のことを云ふ

戸塚観光協会



柏尾川  
絵図の吉田橋。今は吉田大橋という。

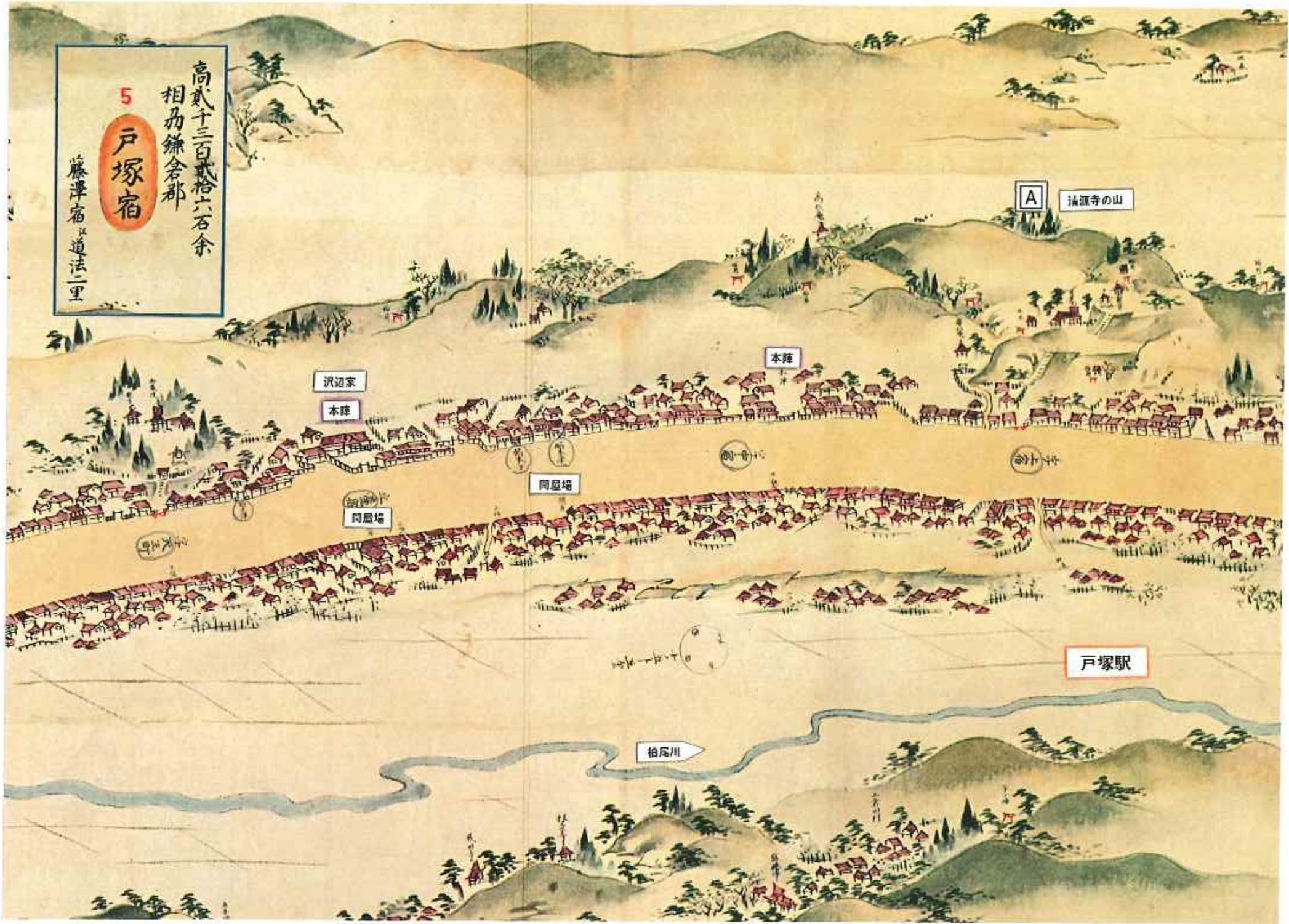


**本陣 2軒**  
脇本陣 3軒  
西側の**本陣沢邊家**。明治天皇が泊まれた行在所の碑が建っている。



東側の**本陣内田家**のあった所。今は何も残っていない。

高貳千三百貳拾六石余  
 相乃鎌倉郡  
**5 戸塚宿**  
 藤澤宿より道法二里





街道の右側にある旧家羽田家。江戸初期の門という。

原宿の一里塚 戸塚の宿を出てしばらく行くと江戸から11里目(44km)の一里塚がある。塚は残っていないが説明板が設置されている。

昔の松並木の一部が残っている。



今の影取町の辺をふり返って見る。東海道が脇道になっている。



原宿村の一里塚周辺の絵図。立場(休憩所)のあった所で軒かの茶屋があった。



国道1号線の日本橋からの距離標識が少し先にある。横浜市戸塚区原宿5丁目のだ。



遊行寺坂 藤沢宿への遊行寺坂を下る。



寺の名の遊行寺坂。



この辺は旧道の松並木が少し残されている。



藤沢宿の入口 坂を下ってバス停藤沢橋の所の少し細い道を右に曲がると藤沢の宿に入る。道が桁型になっていてまたすぐ左に曲がっている。



江戸から12里目(48km)の一里塚の跡。

# 6 《藤沢宿》

遊行寺の門前町で江の島・鎌倉への分岐点

宿内人口

4089人

総家数

919軒

旅籠 45軒

軒軒軒  
大 10  
中 15  
小 20



JR藤沢駅前



遊行寺 正式名は藤沢山無量光院清浄光寺という。創建は鎌倉時代後期の正中2年（1325）で、宗祖一遍上人が諸国を遊行したので遊行寺と名付けられた。時宗の総本山。



本陣 1軒

宿の中程の右側にあった本陣蒔田家の跡。標柱が建てられている。本陣の北側には将軍の御殿があったが今は住宅地になってしまっている。

脇本陣 1軒



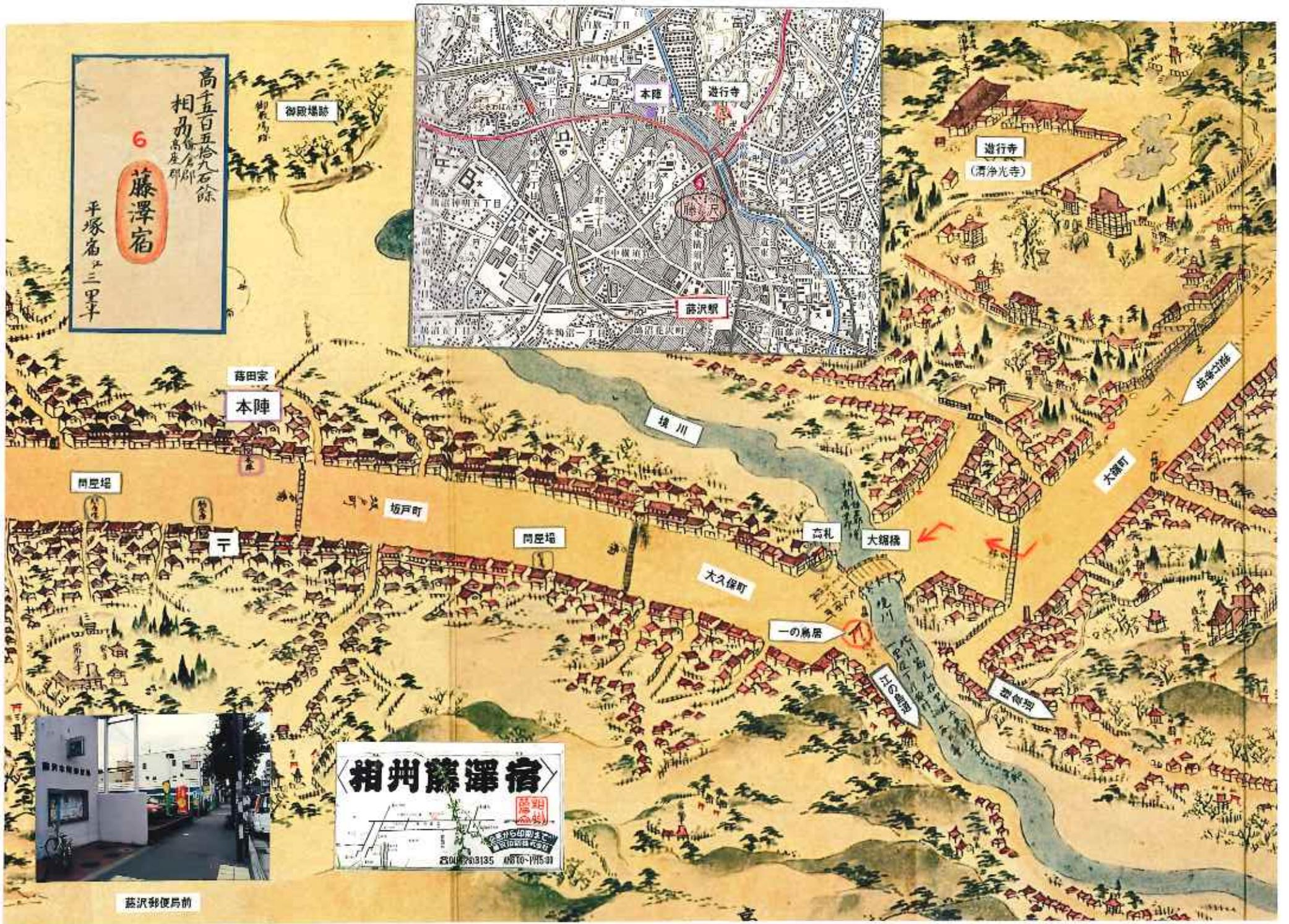
大鋸橋 橋を渡って右に曲がると藤沢宿の中心部へ出る。左が江の島へ行く道。今は遊行寺橋という。



大正時代の大鋸橋。手前の右側が江の島への道で川は境川。



内田金物店 大鋸橋を渡った先の右側にある古い金物屋。藤沢1丁目。



高千五百五拾九石餘  
相州藤澤宿  
藤澤宿  
平塚宿 三千里

御殿場跡

藤田家

本陣

問屋場

坂戸町

問屋場

境川

大久保町

高札

大綱橋

大綱町

一の馬居

大綱橋

問屋場

遊行寺

(酒淨光寺)

高札場



藤澤郵便局前

相州藤澤宿

TEL 2613135 FAX 2613135

0261-2613135



1号線沿いに松並木が残っている。



下の絵にある一里塚の跡



藤沢宿を出て引地川を渡ると大山街道への分岐点に出る。万治4年(1661)の道標がある。



大山街道の分岐点の絵図。立場と一里塚が描かれている。今の城南1丁目の辺。



左へゆくと辻堂の駅に出る。



河口の馬入川と東海道線の鉄橋。



相模川(馬入川)

山中湖を水源とする全長115 kmの川。河口付近を馬入川という。

鎌倉時代の建久9年(1198)ここの橋が完成しその竣工式の帰り頼朝が落馬してなくなったという日く付きの橋。又その時馬が川に落ちて死んだので馬入川という名が付いたという説がある。少し東側の古相模川の話と思われる。



茅ヶ崎市に入る



平塚の町に入る



左が茅ヶ崎駅